

軽井沢はシーズンになると各地に散らばる富裕層のコミュニティと化しますが、元来、避暑地とはそのような機能を備えた場所でした。

明治時代に外国の商人や宣教師、駐日大使らが避暑地に1〜2ヶ月滞在するための別荘を作ったのが日本の避暑地の始まり。現在よりも交通や通信の手段が不備だった時代において、母国を離れた有力者たちが一ヶ所に集まり、避暑という名目のもと、情報交換をしたりネットワークを築いたりすることは、異国でのサバイバルという意味においても大切なことだったのです。

交通や通信の手段が格段に便利になった現代においても、避暑地はそうした機能を果たしています。駐日外国人が「山の軽井沢、湖の野尻湖、海の高山」と呼んだことにならば、西洋においては「山のサンモリッツ、湖のコモ湖、海のドーヴィル」というところでしょうか。

たとえば、イタリヤのコモ湖、ローマ皇帝の時代から保養地として愛されてきた伝統ある避暑地です。自然の雄大な美とヨーロッパの文明をともに享受できる場所です。王室、富豪、著名人の豪華な別荘が立ち並びます。近年はハリウッド・スターが競って別荘を購入するので、リトル・ハリウッドと呼ばれることも。ジョージ・クルーニーの別荘もここにありません。ジョージが未来の妻となるア

Luxury Summer Vacation in the World

名画・名優の過ごし方にヒントあり!?

古今東西に通ずる避暑文化とは

マルと出会ったのも、この場所でした。2013年の夏、共通の友人がアマルをジョージの別荘に連れてきたのが出会いのきっかけで、ジョージはアマルに一目惚れ。その後、結婚し一男一女の双子にも恵まれています。ジョージは、2018年にはハリー王子とメーガン妃を、2019年にはヨーロッパで休暇中のオバマ元大統領一家を別荘に招いています。仕事の領域、国籍を超えたセレブリティのネットワークがこうして避暑地を舞台に築かれていくのです。

コモ湖はスクリーン映えも最高で、ジョージ・クルーニーも出演する『オーシャンズ12』(2004)のロケ地となったばかりでなく、この地に建つヴィラ・ラ・ガエータとヴィラ・デル・バルビアネッロは『007 カジノロワイヤル』(2006)の舞台となり、後者は

『スターウォーズ エピソード2』(2002)でも登場します。

映画との蜜月の高さで言えば、フランスのドーヴィルも負けていません。クロード・ルーシユの『男と女』(1966)の海岸シーンが映画を愛する人々の記憶に刻みつけられている上、レ・プランシュ(木の遊歩道)に遊ぶ更衣室用キャビンは、アメリカ映画祭のためドーヴィルを訪れる映画人の名前が毎年、書き加えられています。『男と女』のふたりが過ごしたオテル・ル・ノルマンディーは、撮影に使われたスイートを「男と女の部屋」と名づけています。『華麗なるギャツビー』(1974)にもこの優雅な避暑地が登場します。

映画ばかりでなくファッションにも深い縁があるのがドーヴィルで、なんといつてもココ・シャネルが1912年にブティックを開いた土地でもありません。シャネルは海辺で過ごすにふさわしいスポーティなリゾットスタイルを打ち出し、第一次世界大戦から逃れてくる各国の富裕層の需要を満たして大成功します。濡れた砂の色からヒントを得て、シャネルカラーとなるベージュも生まれます。ここでの成功を受けて、3年後、シャネルはビアリッツにも進出し、その5年後にはロシアから亡命してきた貴族デIMITリバヴロヴィチと出会い、恋に落ちるのです。



ジョージとアマル、『男と女』のアンヌとジャンヌ、シャネルとデIMITリバヴロヴィチは恋を生みやすいようです。なぜでしょう? もう一組のカップル、コモ湖のヴィラ・デル・バルビアネッロで語り合うジェームズ・ボンドとヴェスパー・リンドの会話を聞いてみましょう。

「あなたは甲冑をつけてしまっただ」と言うヴェスパーに、ボンドはこう返します。

「甲冑などつけていない。君に脱がされた。ここに居る僕は丸裸だ。」

理由を考へるのも虚しく、なんだか暑くなってきました。避暑に行きたいです、わたくし。

服飾史家/大学客員教授
中野香織さん

最新ファッション史から最新のトレンド事情まで執筆・講演をおこなうほか企業の顧問を務める。著書『イノベーター』(日本実業出版社)、『ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史』(吉川弘文館)ほか多数。